

令和４年度 授業改善推進プラン 理科

	観点別	
学年	知識・技能	思考・判断・表現
３年	・理科の用語や基本的な事項についてまとめ、知識の定着を図る。 ・自分の生活と結び付けて考えさせるようにする。 ・観察は、視点をもって継続的に行う。以前との変化を見つけながら観察させるようにする。 ・実験道具の正しい扱い方を理解し慣れさせる。	・問題解決学習を基本とし、観察や実験から予想したり考えたりする場を設定する。 ・自然の事物・現象の差異点や共通点に着目させたり比較させたりする。 ・実験・観察の結果を視覚的にわかりやすく表示する。
４年	・基礎的な知識をしっかりと身に付けることができるよう、単元の終わりのまとめを丁寧に行い、知識の定着を図る。 ・自分の生活と関連付けて、自然現象の知識を深める。 ・栽培活動を継続し、その変化の比較観察を行う。観察の視点・観点を明示することで観察力を養う。 ・実験の手順を考えさせてから実験する。正しい実験器具の扱い方を繰り返し指導し、慣れさせる。	・既習内容や生活経験を基に、根拠のある予想や仮説を考える場を設定する。 ・観察や実験活動を通した問題解決型学習によって、科学的な見方や考え方を育てる。変化と原因を関連づけて考えるようにさせる。 ・「課題-予想-観察・実験-結果-考察-まとめ」という授業の流れで指導し、思考力を高める。 ・実験、観察の結果を折れ線グラフ・棒グラフ、表、回路図などで表す。ま
５年	・実験や観察のまとめの時間を確保し、自分の言葉できちんとノートにまとめる。 ・児童相互の意見交換をし、今後の学習に活かせるように知識の定着を図る。 ・自分の生活と関連付けて考え、自然事象の知識を深める。 ・顕微鏡などの実験器具の使い方を確実に指導するとともに、授業で活用する機会を多くもたせ、使い方に習熟させる。	・観察や実験活動を通した問題解決学習によって、科学的な見方や考え方を育てる。 ・実験を行う際に、「調べる条件」「そろえる条件」を明確にして計画を立て、条件に目を付けて実験を行うことができるようにさせる。 ・実験・観察の結果を折れ線グラフ・棒グラフ・表などで表し、そこから分かったことを文章で表現させる。

6 年	・観察や実験の後に、話し合ったり確かめたりする時間を確保し、確実に知識・理解の定着を図る。 ・ワークシートやプリントを活用し、基礎的・基本的な学習内容の復習を行い、理解の定着を図る。 ・気体検知管や各種の薬品など、実験で出てくる器具等については、教科書を活用し、正しい扱い方を確認する。 ・実験の結果だけでなく、過程に注目させ、記録をとるようにする。	・自然の事物・現象の変化や働きについて、実験や観察・調査を通して、その要因や規則性・関係を推論する能力を育てる。 ・実験・観察の結果を折れ線グラフ・棒グラフ・表・モデル図などで表し、科学的な思考力・表現力を育てていく。
--------	--	--

主体的に取り組む態度

- ・児童の疑問や予想を大切にし、主体的に学習が進められるよう計画する。
- ・飼育・栽培の学習活動や実験などの体験活動を多く取り入れ、意欲や関心を高める。

- ・タブレットPC「まなびポケット」「スクールタクト」を有効活用し、植物の観察時、実際に写真を撮ってから教室で観察カードに詳しく記述するなどして、観察事項を適切に比較できる

- ・児童の疑問や予想を大切にし、主体的に学習が進められるよう計画する。
- ・学習課題を明確にすることで、問題解決の意欲や関心を高める。
- ・実験や観察の機会を増やしたり、ＩＣＴを活用したりして科学に関心をもたせるようにする。
- ・体験を通しての児童の気づきを大切に

- ・授業の導入や問題提示の仕方を工夫し、学習内容に興味・関心をもたせるようにする。
- ・実験や観察などの体験やＩＣＴを活用して学ぶ機会を増やし、科学に関心をもたせるようにする。

- ・児童が自然事象に対して関心をもって学習を進めていけるよう、単元の導入の工夫をする。
 - ・ＩＣＴや映像資料などを積極的に活用し、児童の興味を喚起する。
 - ・子どもの「なぜ？」を大切にしてい
- く。